

南極の氷の体験授業 <6年>R4.10.7（金）6校時

自衛隊鹿児島地方協力本部奄美大島駐在員事務所の方が、南極の氷を持ってきてくださいました。

所長の渡邊さんと広報官の榮さんの2人からお話を聞きました。所長の渡邊さんが実際に南極に行き、その時に持ち帰った氷を持ってきてくださいました。



南極のことや南極観測隊の仕事、観測船の大きさや特徴など、いろいろなお話を聞きました。初めて知ったことがたくさんありました。



代表の児童がお礼のあいさつをしました。
その後、みんなで南極の氷を触ったり、音を聞いたりしてみました。解けにくかったり、ぱちぱち音が鳴ることに驚きました。



新聞にも掲載されました

〔10.8(土) 南海日日新聞〕

気泡の音に耳澄ませる

自衛隊が南極の氷を贈呈

奄美小

奄美市名瀬の奄美小学校
(中村勝校長、児童367

人)に7日、南極の水が
届いた。児童らは氷に触

れたり、気泡がはじける
音に耳を澄ませたりして、
遠い南極の世界に思いをは
せた。

氷は海上自衛隊の砕氷艦
「しらせ」が採取した。自
衛隊鹿児島地方協力本部奄
美大島駐在員事務所の渡邊
繁樹所長(54)と、同校卒
業生の榮真路広報官(52)
―奄美市名瀬出身―が同校
を訪れ贈呈した。

同校体育館で6年生62人
に水がお披露目された。約
30年前にしらせの乗員たっ
たという渡邊所長は、南極
観測隊員の送迎や物資の輸
送などしらせの仕事や、隊
員が現地で水を切り出す様
子を紹介。南極の水は、雪
が積もって押し固められて
できており、硬くて溶けに
くいと説明した。

渡邊所長は「水の中には
数万年前の空気が入ってい

る。そこにどんな生き物が
すんでいたのかなど、想像
しながら勉強して」と呼び
掛けた。

同校への水の贈呈は、将
来の夢は「自衛官」と地元
紙に投稿した6年生の岩越
夏菜さん(12)の作文がき

っかけ。岩越さんは「南極
の水はすごい。溶けないつ
て不思議な感じ」と笑顔を
見せ、「震災のニュースで
たくさんの人を救助する姿
を見た。私も人を助けられ
る自衛官になりたい」と話
した。



南極の水に触って歓声を挙げる児童。7日、奄美市名瀬の奄美小学校

氷触れ、南極の魅力学ぼう

特別授業 奄小で 自衛隊員がサプライズ来校



南極の水に触れたり、空気が弾ける音を聞く児童たち



奄美市名瀬の奄美小学校（中村勝校長）で7日、6年生を対象にした南極について学ぶ特別授業が同校体育館であった。自衛官に憧れる児童へささやかな贈り物を届けようと、南極観測隊員だった自衛隊鹿児島地方協力本部奄美大島駐在員事務所2等海尉・渡邊繁樹所長らがサプライズで来校し講話。児童82

人は観測船「しらせ」が持ち帰った氷にも触れ、1万4千メートルの南極の魅力を学んだ。授業のきっかけは、本紙8月24日付に掲載の「あまみ子ども読書・新聞応援プロジェクト」の記事。東日本大震災で人命救助にあたる隊員の姿に憧れ「自衛官になりたい」と綴った同6年生・岩越夏菜さんの作文を読んだ同所隊員が、「児童の役に立てれば」との思いから申し出て実現した。

講話では、約30年前に観測隊員として南極を2回訪れた渡邊所長が、氷に覆われた極地の環境や砕氷艦「しらせ」での活動、昭和基地で専ら自衛隊の役割などをスライドで紹介した。氷については数万年以上前の空気が閉じ込められており、「当時の天候を研究する上で役立つ」と解説。氷を砕きながら前進と後退を繰り返して進む「しらせ」の高機能ぶりなども説明した。

講話後は、同本部から届いた約2キロの南極の氷がお披露目されプレゼント。児童たちは氷に手で触れ「冷たい」と声を上げながら、耳を近づけてフチフチと空気が弾ける音なども確認した。

岩越さんは「知らないことがとても多く勉強になった」と喜び、自衛隊員との対面には「かっこいい。南極にも行ってみたい」と笑顔だった。

子供たちの日記から

今日、6時間目に自衛官の人が奄美小に来て、「南極に行ってどんなことをするのか」、「南極はどんな場所なのか」などを教えてくれました。

ぼくが一番楽しみにしていたのは、南極の氷をさわることでした。

氷の近くに耳を近づけると数万年前の空気がぬける音が聞こえました。氷はとても冷たくて、ずっとさわっていると手がひりひりしてきました。

ふだんできない体験ができてよかったです。

ぼくは、南極の氷にさわりました。最初、ビールを入れたコップの方が冷たいと思っていました。けれども、その予想をこえる冷たさでした。

数万年前の空気が入っていると聞いたので、とてもとても、おどろきました。

また、さわってみたいです。